

特定保健指導レベルの改善 と 性別・朝食頻度・勤務形態

全国健康保険協会 福井支部

矢澤 真代

【目的】

特定保健指導（特保）後の特保レベルの改善有無と、性別・朝食摂取頻度・勤務形態の関連について明らかにすること。

【方法①】

[分析対象者]: 協会けんぽ福井支部における2022年度の特保の初回面談者40-62歳のうち、初回面談時に食事の摂取頻度（一週間当たり摂取回数）と勤務形態について回答が得られ、翌2023年度の特保レベルも確認可能な2,635名。

【方法②】

以下のロジスティック回帰分析を行った。

[目的変数]: 2023年度の特保レベル改善有無

[説明変数]: (基準カテゴリ)

- ・性別 (男性/女性)
- ・年齢階級 (40-49/50-59/60-62歳)
- ・朝食/昼食/夕食の摂取頻度
(各1週間当たり5回以上摂取あり/なし)
- ・勤務形態 (日勤/交代勤務/夜勤)

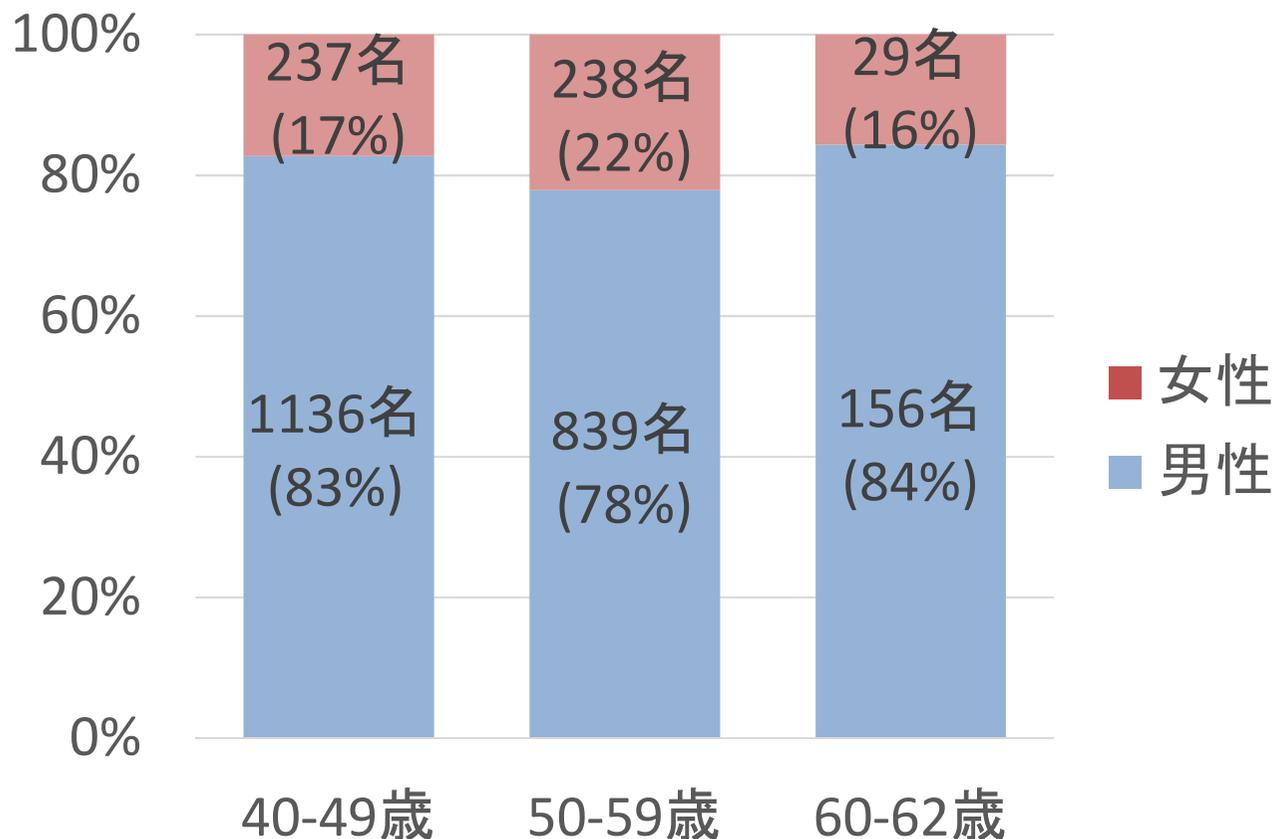
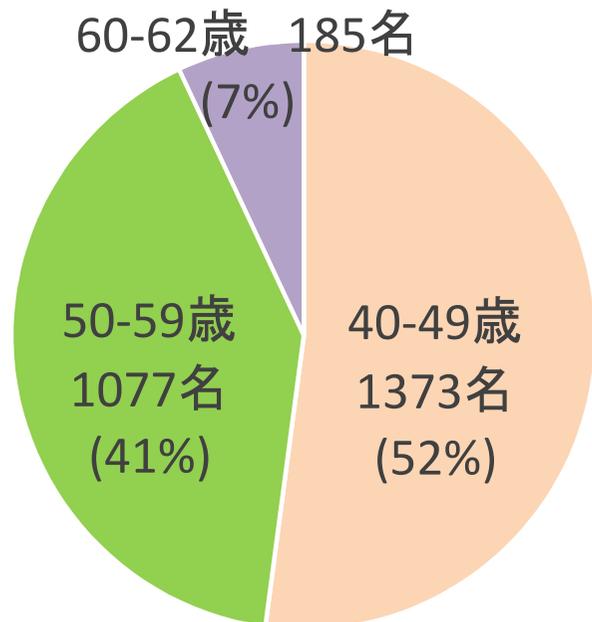
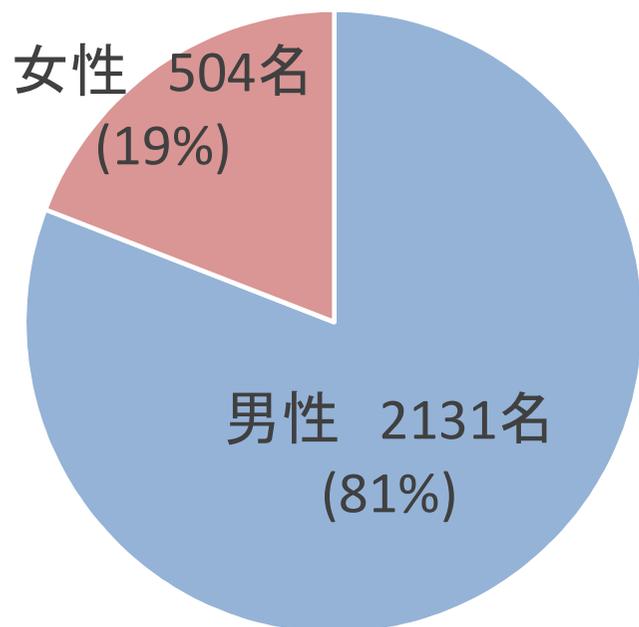
同様に、性別・年齢階級毎にも行った。
有意水準は5%とし、SPSS ver.29を用いた。

【方法③】

目的変数(特保レベル改善有無)の定義

改善	特保レベル 2022年度		特保レベル 2023年度
「なし」	動機付け支援	⇒	動機付け支援 積極的支援
	積極的支援	⇒	積極的支援
「あり」	動機付け支援	⇒	非該当
	積極的支援	⇒	非該当または 動機付け支援

【結果①】 分析対象者の性・年齢構成



男性が8割
40-59歳が9割強

【結果②】 男女合計

- 女性は特保レベルが有意に改善し易い(オッズ比1.247)。
- 朝食を週5回以上摂取する者は有意に改善し易い(オッズ比1.376)。
- 勤務形態が夜勤の者は、有意に改善し易い(オッズ比2.387)。

説明変数	項目名	有意 確率	オッズ 比	95%信頼区間		基準カテゴリ (オッズ比=1)
				下限	上限	
性別	女性	0.033	1.247	1.018	1.527	男性
年齢階級	50-59歳	0.256	1.104	0.931	1.309	40-49歳
	60-62歳	0.174	1.249	0.906	1.721	
朝食摂取	週5回以上 摂取あり	0.002	1.376	1.125	1.684	週5回以上 摂取なし
昼食摂取		0.264	1.212	0.865	1.697	
夕食摂取		0.433	1.364	0.627	2.967	
勤務形態	交代勤務	0.614	1.072	0.818	1.405	日勤
	夜勤	0.005	2.387	1.294	4.400	

【結果③】 男性・年齢階級別

※ - :10名未満のカテゴリは非表示

- 40-49歳において、朝食を週5回以上摂取する者が、
50-59歳において、勤務形態が夜勤の者が、それぞれ改善し易い。

年齢階級	説明変数	項目名	有意確率	オッズ比	95%信頼区間		基準カテゴリ (オッズ比=1)
					下限	上限	
40-49歳	朝食	週5回以上 摂取あり	0.001	1.664	1.243	2.227	週5回以上 摂取なし
	昼食		0.642	0.905	0.594	1.378	
	夕食		0.140	2.543	0.737	8.777	
	勤務形態	交代勤務	0.906	0.977	0.668	1.429	日勤
		夜勤	0.428	1.544	0.528	4.520	
50-59歳	朝食	週5回以上 摂取あり	0.286	1.217	0.849	1.744	週5回以上 摂取なし
	昼食		0.079	1.965	0.924	4.179	
	夕食		0.429	0.549	0.124	2.430	
	勤務形態	交代勤務	0.986	0.995	0.568	1.742	日勤
		夜勤	0.010	3.543	1.346	9.329	
60-62歳	朝食	週5回以上 摂取あり	0.811	0.889	0.338	2.338	週5回以上 摂取なし
	昼食		0.094	6.055	0.734	49.922	
	夕食		-	-	-	-	
	勤務形態	交代勤務	-	-	-	-	日勤
		夜勤	-	-	-	-	

【結果④】 女性・年齢階級別

- 有意な差は認められなかった。

※ - :10名未満のカテゴリは非表示

年齢階級	説明変数	項目名	有意確率	オッズ比	95%信頼区間		基準カテゴリ (オッズ比=1)
					下限	上限	
40-49歳	朝食	週5回以上 摂取あり	0.709	1.148	0.557	2.368	週5回以上 摂取なし
	昼食		-	-	-	-	
	夕食		-	-	-	-	
	勤務形態	交代勤務	0.541	1.344	0.521	3.468	日勤
夜勤		-	-	-	-		
50-59歳	朝食	週5回以上 摂取あり	0.555	0.794	0.368	1.712	週5回以上 摂取なし
	昼食		-	-	-	-	
	夕食		-	-	-	-	
	勤務形態	交代勤務	0.379	1.395	0.665	2.929	日勤
夜勤		-	-	-	-		
60-62歳	朝食	週5回以上 摂取あり	-	-	-	-	週5回以上 摂取なし
	昼食		-	-	-	-	
	夕食		-	-	-	-	
	勤務形態	交代勤務	-	-	-	-	日勤
夜勤		-	-	-	-		

【考察①】 男女合計の考察

- 特定保健指導後の特保レベルの改善には、「女性」・「朝食の摂取頻度が週5回以上」・「勤務形態が夜勤」であることが良い影響を与えている可能性が示唆された。
- 女性は、男性と比べてパートタイム・有期雇用労働者が多く、標準報酬月額が低い。これらの就業形態や経済的な状況、また同居家族の有無などが、健康づくりへの取り組みや医療機関への受療行動に影響した可能性が考えられる。今後は、これらに関連する項目について分析を深める必要がある。

【考察②】 男性の考察

- 男性は、40歳代では「朝食摂取が週5回以上」、50歳代では「勤務形態が夜勤」であることが良い影響を与えている可能性が示唆された。
- 今後は、朝食の摂取頻度や勤務形態がどのような理由で特保レベルの改善に影響を与えているかを分析し、特保時にどのような介入をすることが特保レベルの改善に効果的か明らかにしていく必要がある。
- 朝食摂取が週5回以上可能な者や、勤務形態が夜勤である者に特徴的な状況がないか、さらに分析を深める必要がある。

【考察③】 女性の考察

- 女性においては、いずれの説明変数も有意な差が認められなかった。食事・勤務形態以外の項目で特保レベルの改善と関連する項目がないか、さらに分析を深める必要がある。